

14.海の豊かさを守ろう

湘南藤沢キャンパス(SFC)が自然共生サイトに認定

慶應義塾は、環境省が発足した「生物多様性のための30by30アライアンス*」(<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>)に2023年5月より加盟しています。

2025年3月、湘南藤沢キャンパス(SFC)が、環境省の2024年度後期「自然共生サイト」に認定されました。「自然共生サイト」は、生物多様性の価値を有し、事業者、民間団体・個人、地方公共団体による様々な取り組みによって、生物多様性の保全が図られている区域を国が認定する、ネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みの一つです。自然共生サイトに認定された区域は、国立公園などの法的に設定された保護地域以外で、生物多様性を効果的かつ長期的に保全する地域(OECM)として、国際データベースに登録されます。SFC自然共生サイトは、都市化が進む湘南藤沢地域において、豊かな自然環境が残り、生物多様性が高いエリアに位置しています。SFCでは、このエリアの自然環境・生物多様性の保全およびサステナブルな地域づくり・キャンパスづくりに向けて、教育・研究機関の場としての強みを活かし、最新の技術も取り入れた先進的な取り組みを積極的に実施してきました。今回の認定は、そうした自然環境・生物多様性の保全への取り組みにより、本地域に典型的な生態系や希少な生物が保全されていることが評価されたものです。

また、SFCの認定に先駆けて、慶應義塾保有の学校林(慶應の森)の一つである宮城県南三陸町の志津川山林も、南三陸FSC認証林の一部として2024年10月に2024年度前期「自然共生サイト」に認定されています。慶應義塾は、全国に所有山林や国有林分収契約山林を合わせ160ヘクタール超の山林を保有しており、志津川山林は慶應の森の全体の4割を占める64ヘクタールの面積を有する最大の学校林です。南三陸地方では、絶滅危惧種に指定されているイヌワシの生息環境再生プロジェクトが進められており、志津川山林もその対象地の一つとして貢献しています。

※ 「30by30アライアンス」とは、生物多様性の損失を食い止め、回復させる(ネイチャーポジティブ)というゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。



SFCサイト全体図

プラスチック製文房具リサイクル活動

中等部は、2023年から「PILOT使用済みペン リサイクルプログラム」(<https://pilot-penrecycle.jp/#aboutProgram>)に参加しており、毎年11月の展覧会において、不要となったプラスチック製文房具の回収を行っています。2024年5月には、株式会社パイロットコーポレーション(<https://www.pilot.co.jp/>)による特別授業が実施され、回収したペンの分解、リサイクルボールペンの組み立て、万年筆の仕組みなどを学びました。また、江の島の海岸でマイクロプラスチックやその元となるごみ拾いを行い、海洋プラスチック問題への理解を深めています。

伊藤塾長らがAPRU学長会議、APWiLサミットに参加

2024年6月24日～26日、ニュージーランド・オークランドで開催されたAPRU(The Association of Pacific Rim Universities:環太平洋大学協会)第28回年次学長会議に、伊藤塾長らが参加し、“Oceans: The World’s Challenges Divide Us, the Ocean Currents Connect Us”をテーマに、気候変動や海洋環境・生物多様性保全などについて議論を重ねました。年次学長会議に先がけて6月23日に開催されたAPWiL(Asia Pacific Women in Leadership)In-Person Summitのパネルディスカッション“The Role of University Leadership in Advancing Gender Equity”に登壇した伊藤塾長は、ジェンダー平等に関する取り組みを紹介し、組織のリーダーが果たすべき役割について議論を交わしました。キーノートセッション“A Conversation on Driving Change Towards Gender Equality”に登壇した奥田常任理事は、社会とともに変化するダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)の今後のあり方について意見を交換しました。



登壇する奥田常任理事
写真提供:APRU

塾生会議プロジェクトの活動

塾生会議の提言を踏まえて提出された企画は、学内の審査委員会で審議され、採択されたものがプロジェクトとして稼働します。

サスシープロジェクト

SDGsゴール14「海の豊かさを守ろう」における10のターゲット内容や具体的な取り組みの認知向上、サステナブル・シーフードへの興味関心のきっかけとなることを目的としたプロジェクトです。

2024年4月23日～4月25日と12月17日～12月19日、日吉キャンパスの学生食堂「グリーンズマルシェ」で、株式会社グリーンハウス(<https://www.greenhouse.co.jp/>)の全面協力の下、ASC/MSC認証を取得しているシーフード(サステナブル・シーフード)を使用したメニューを提供する、「サステナブル・シーフードウィーク」を開催しました。

2025年度以降は協生環境推進室管轄の事業として、定期的なサステナブル・シーフードの提供を継続していきます。



MSCおさかなミンチの麻婆丼

ウォーターサーバープロジェクト

全キャンパスに設置された46台のウォーターサーバーの認知度・利用率を上げるため、2024年5月～6月に各キャンパスにおいて麦わらを配合したボトルの無料配布と、景品が当たるスタンプラリーを実施しました。

今後は、設置・管理を担う管財部や協生環境推進室と共に、利用のさらなる定着のため、公式SNSや大学の広報を活用した情報発信の強化や、設置場所ごとの利用率を分析し、より多くの人にとって便利な場所への再配置や追加設置などを検討していきます。



麦わら配合ボトルの無料配布

コンタクトケース回収プロジェクト

SDGsゴール12「つくる責任・つかう責任」とゴール14「海の豊かさを守ろう」を実現し、2030年までにプラスチックごみを20%削減することを目指すプロジェクトです。

独自のアンケート調査から、学生の約60%が使用していると想定されるコンタクトレンズに着目し、2024年12月18日、日吉キャンパスの5ヶ所にコンタクト空ケース回収ボックスを設置し、常時回収を可能にしました。また、2025年1月8日～1月9日、日吉キャンパス塾生会館前で、協賛企業である株式会社シード(<https://www.seed.co.jp/>)のクーポンや景品を用意したコンタクト空ケース回収イベントを開催し、計2841個を回収しました。

2025年度も管財部や協生環境推進室の支援の下、複数のキャンパスでの常設を予定しています。



コンタクトケース回収ボックス(画像左)